

千早城 大阪府南河内郡千早赤阪村千早

鎌倉時代末期、幕府を倒すため後醍醐天皇方の楠木正成が金剛山一帯に赤坂城（下赤坂城）・楠木城（上赤坂城）などからなる城塞群を築き、本城の上赤坂の背後に築いた詰城が千早城。千早川の渓谷を利用し、三方を絶壁で囲まれた山城で背後には金剛山が控える要害の地。鎌倉幕府軍が千早城に釘付けとなっている間に、新田義貞が挙兵し鎌倉幕府は滅亡へと追い込まれることとなった。その後 1392 年（明德 3）北朝方の畠山基国に攻められ正成の孫である楠木正勝が防戦するも落城し廃城となる（説明版）。



三の丸跡付近の千早城址石碑



楠公生誕の地の石柱



楠誕生の説明版



千早城の説明版



千早城の案内図



山城ならではの勾配



楠正成公の墓(供養塔か?)



本丸跡にある千早神社